



小野赤沼行政区

平成16年度町政対話会

みなさんの声を 町政に

五月十八日の本町行政区を皮切りに、六月三十日の和名田行政区まで、全二十七行政区において町政対話会を開催しました。

期間中、四百六十名以上の町民のみなさんの参加をいただき、生活に密着している道路・水路、ごみの分別収集に関する話題や、町村合併、学校や保育園等の統廃合、公立小野町地方総合病院の常勤医師の確保に関する話題など幅広い分野への意見や提言等をいただきました。

今月号の広報では、対話会での意見や提言の内容の一部をご紹介します。



ごみ分別収集 について

毎日の生活の中で、「ごみ」を全
く出さない日はありますか？

ごみの排出を抑えるためのリサイクルの推進とともに、分別の種類も多様化しています。

「ペットボトル回収等は月一回で、長期保管は衛生的にも良くない。」(仲町)

「地区住民が分別、指定日のルールを守っても、地区外からの投棄が後を絶たない。」(反町外)

「農道へ投棄された空き缶が多く、対処に困っている。」(雁股田)と
いった問題提起や「景観美化と町有財産の有効活用のため、町有林材を使用した「ごみステーション」の整備をしてはどうか。」(大八)といった、地域資源の活用と併せた提言もありました。

「ごみ」が「護美」となるような地域にしたいものです。

防災行政無線の難聴 地区の解消について

防災行政無線は、火災発生時や台風時等の情報伝達と、普段の行政情報等を提供する手段として使
用しています。

「広報の音が重複して聞こえ、内容が聞き取れない。」(横町)

「地区内全戸にて防災行政無線による情報伝達が必要である。」(皮籠石)

「保育園前に防災行政無線が設置されているが、位置が低いためか内容が確認できない家がある。全世界帯で聞こえるようにはならないのか。」(飯豊上)

「個別受信機は、いざという時の情報を得るために有効なので、非常時における連絡体制確保のためにも早急に整備願う。」(浮金)

この外にも各地域から防災行政無線の整備に関する要望をいただき、防災行政無線の果たす役割について認識を新たにしました。